

**製品名: Bcl-2 (リン酸化 Thr56) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04306**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000,IP 1:20-1:50
分子量	26kDa

**抗原情報**

遺伝子名	BCL2
別名	BCL2; Apoptosis regulator Bcl-2
遺伝子 ID	596.0
SwissProt ID	P10415
免疫原	抗血清は、Thr56 のリン酸化部位周辺のヒト BCL-2 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 26-75

**背景**

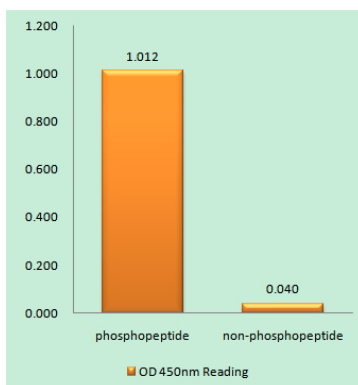
BCL2、アポトーシス制御因子 (BCL2) ホモサピエンス この遺伝子は、リンパ球などの一部の細胞のアポトーシスを阻害するミトコ

ミトコンドリア外膜タンパク質をコードしています。BCL2の免疫グロブリン重鎖遺伝子座への転座など、BCL2の恒常的発現は、濾胞性リンパ腫の原因と考えられています。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2016年2月]、疾患: BCL2に関連する染色体異常は、濾胞性リンパ腫 (FL) [MIM:151430] (別名II型慢性リンパ性白血病) の原因となる可能性があります。免疫グロブリン遺伝子領域との転座 t(14;18)(q32;q21)。染色体転座を伴う非ホジキンリンパ腫で見られる BCL2 変異は、ヌクレオチドの遷移を引き起こす Ig 体細胞超変異機構に起因する可能性があります。ドメイン: BH4 モチーフは、抗アポトーシス活性および RAF-1 との相互作用に必要です。機能: 因子依存性リンパ造血細胞や神経細胞など、さまざまな細胞系でアポトーシスを抑制します。ミトコンドリア膜透過性を制御することで細胞死を調節します。カスパーゼとのフィードバック ループ システムで機能すると思われます。ミトコンドリアからのシトクロム c の放出を防ぐことによって、および/またはアポトーシス活性化因子 (APAF-1) に結合することによって、カスパーゼの活性を阻害します。オンライン情報: Bcl-2 エントリ, PTM: Ser-70 のリン酸化/脱リン酸化が抗アポトーシス活性を調節します。PKC による成長因子刺激による Ser-70 のリン酸化は、抗アポトーシス活性に必要であり、細胞周期の G2/M 期に起こる。成長因子が存在しない場合、BCL2 は ERK やストレス活性化キナーゼなどの他のタンパク質キナーゼによってリン酸化されると考えられる。タンパク質ホスファターゼ 2A (PP2A) によって脱リン酸化される。PTM: アポトーシス中にカスパーゼによってタンパク質分解的に切断される。BH4 モチーフを欠く切断タンパク質は、プロアポトーシス活性を有し、シトクロム c を細胞質に放出し、さらなるカスパーゼ活性を促進する。類似性: Bcl-2 ファミリーに属する。サブユニット: ホモ二量体、および BAX、BAD、BAK、Bcl-X (L) とヘテロ二量体を形成する。BAX とのヘテロ二量体形成には BH1 および BH2 モチーフの完全な状態が必要であり、抗アポトーシス活性に必須である (相同性による)。また、APAF1、RAF-1、TP53BP2、BBC3、BCL2L1、MRPL41、BNIPL とも相互作用する。FKBP8 への結合は BCL2 をミトコンドリアへ誘導し、BCL2 の標的への結合を阻害すると考えられる。組織特異性: 様々な組織で発現する。

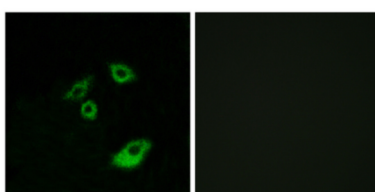
## 研究分野

アポトーシス阻害、ミトコンドリアアポトーシス、アポトーシスの概要、接着斑、神経栄養因子、筋萎縮性側索硬化症 (ALS)、がんの経路、大腸がん、前立腺がん、小細胞肺癌

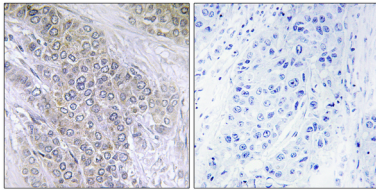
## 画像データ



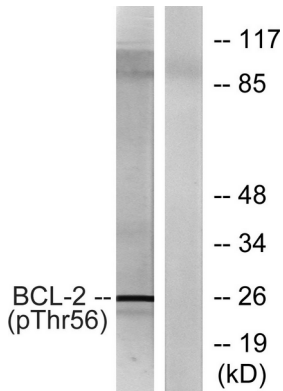
BCL-2 (リン酸化 Thr56) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



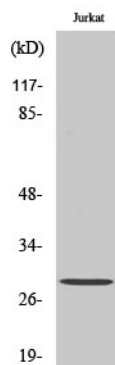
BCL-2 (リン酸化 Thr56) 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした画像です。



BCL-2 (リン酸化 Thr56) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。  
右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



K562 細胞ライセートを H<sub>2</sub>O<sub>2</sub> 100uM 30分処理し、BCL-2 (リン酸化 Thr56) 抗体を用いてウェスタンブロット解析を行った。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 Bcl-2 (T56) ポリクローナル抗体を 1: 500 に希釈して、様々な細胞をウェスタンブロット解析した。